

会 議 録

1 会議名

平成27年度第1回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 学びのグランドデザインについて（公開）
- (2) 平成27年度社会教育事業の説明について（公開）
- (3) 市政モニターアンケートの結果について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

平成27年4月27日（月） 午後3時～午後5時15分

4 開催場所

上越市レインボーセンター1階 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：池田洋子、石井陽子、井上博、岩井文弘、碓井欣一、大越さとみ、小谷茂、佐藤ゆかり、惣塚泰次、高倉聡、竹内伊澄、土屋美枝、中村文也、樋口嘉和、松縄隆之、横山郁代、渡邊恵美
- ・事務局：中野敏明教育長、大山仁社会教育課長、佐藤政弘参事、小嶋栄子副課長、内山輝義公民館長、吉田智之係長、武内朋廣係長、佐藤陽介係長、山本栄美主任、水落詩穂莉主事

8 発言の内容（要旨）

- (1) 開会
- (2) 中野教育長挨拶

(3) 委嘱状の交付

(4) 役員選出

事務局より案が提示され、委員の承認により碓井欣一委員が委員長、渡邊恵美委員が副委員長にそれぞれ選任された。

(5) 議 事

① 学びのグランドデザインについて

— 資料No.1に基づき事務局説明 —

横山委員：成人を対象とした事業が多々あると思うが、今まで行ってきた事業との整合性を考慮して講座の数を組み立てたのかどうか教えてほしい。

事務局：行政で企画した講座もあるが、講座を組み立てるときには各地区館・分館のサポーター等からこのような事業がやりたいということが上がってくる。今年度は5つの事業の柱に分けて組み立てたが、あくまでも今年の地区館・分館ではこのような事業をしていきたいというものをリストアップしたもので、全体的な整合性は取っていない。

横山委員：行政改革で事務事業の見直しがあり、かなり事業が減っていると思う。公民館についても、利用する皆さんのニーズがあって今回こういう数になったと思うが、必要だけれど上がってこなかったことで廃止になったものもあるのではないかと思った。仮にそういうことがあれば、自主事業のような形で取り組まれていけば望ましいと思う。

小谷委員：各種事業の決定基準を教えてください。

事務局：各地区館・分館でどのような事業を実施していきたいか、公民館協力員と公民館サポーターの意見を聞きながら作っていくという形になっている。このほか、27年度からは全市共通のテーマで事業を行うこととしている。今年度は「防災」というテーマを設けた。

小谷委員：今ほどの話であると、地区館・分館から上がってきたものが中心になってしまう。せっかくグランドデザインが策定されたのであれば、それに沿ったものを増やしてもよいと思われるので検討してほしい。

樋口委員：謙信 KIDS プロジェクトが今回かなり整理された。よいことと思うが、どのような流れで整理されたかお聞きしたい。

事務局：謙信 KIDS プロジェクトについては、平成 26 年度は 34 講座で定員 864 人、今年度は 26 講座で定員 575 人となっている。減となった理由は 2 点あり、一つは「はじめて KIDS」を 11 講座から 3 講座に減らしていることである。「はじめて KIDS」は単発もしくは半日で終了する講座であるため、目的の一つである異学年交流と仲間作りを十分に達成できないことや、公民館が実施する児童対象の講座に類似の体験教室があることから、廃止又は統合させていただいた。

もう一点は、類似した講座の統合であり、「里」や「川」に関する講座を「自然」に統合したり、複数回開催する必要がないものを一つの講座に整理統合したりした。

碓井委員長：今まで出された質問に対する事務局の回答を聞いていると、学びのグラウンドデザインを策定したことで整理が明確になり、回答にも自信が見られる。以前に比べ一歩踏み出された感じがして頼もしい。

② 平成 27 年度社会教育事業の説明について

— 資料 No. 2 に基づき事務局説明 —

高倉委員：2 点お聞きしたい。まず中学生まちづくりワークショップの成果は関係部署に伝えているのか。発表してそのままというのはもったいないという気がする。

2 点目は市展について、今年度から 18 歳以下の方について奨励賞を新設したということであるが、妙高市の市民で上越市内の高校に通っている場合は対象となるのか。

事務局：中学生まちづくりフォーラムで発表した内容については、以前から所管部署につないでおり、今後も同様である。

惣塚委員：グラウンドデザインでも地域の人材育成について言われているが、私は中

山間地に住んでいて、地域の後継者について危惧している。昔は青年団や婦人会等、人材育成の組織がたくさんあり活発であった。30歳代から40歳代の人材育成の取組は社会教育分野で重要な分野だと思っている。今後とも力を入れてほしい。

事務局：市民が主役のまちづくりということを総合計画に位置付け、そこに都市整備や教育文化などの様々な分野がぶら下がって行くという方向に大きく舵を切ったということになっている。地域マネジメント組織やまちづくり市民大学等の取組も念頭に置きながら人材育成に重きを置き舵を切ったということである。まだ総合計画はこの4月に始まったばかりだが、そういった視点から人材育成に力を入れていくので、頂いた意見を参考に取組を進めていきたい。

先ほどの市展の件については、居住地にかかわらず出品できるので、委員の皆さんにもご承知ご協力をお願い申し上げます。

石井委員：学びの輪で人を育てることが一番の目的であるということが明確化されたことに喜びを感じている。ランドデザインができたことで5つの事業の柱に沿って事業を計画し、地域とまとまって行く方向が見えてきたのでよくまとめられて良かったと思う。

後継者の問題については、私たち名立区でも人口が減っている。中学生も今年全校で49人しかいない。中学生が地域の担い手になることを目指し、様々な事業に参加してもらおうよう進めている。自分の故郷が大好きでいつでも帰ってきたい場所になるように社会教育事業を進めてほしい。

竹内委員：昨年度から県立美術館の評議員をさせていただいているが、上越市の小中学校の来館数は中学校が3校と小学校が2校となっている。より多くの児童生徒が、本物の美術品を見る機会がもっとあればと感じている。近代美術館や万代島美術館は上越からは遠いと思うが、交通面等での援助があればいいと思うので検討していただきたい。

土屋委員：謙信 KIDS は低学年向けには平仮名で、高学年向けには漢字ということでもとても分かりやすくなり、数も減ってさみしい部分もあるが、親子としては選びやすくなったと思う。ただし、大潟区でやっていた「メロディの楽校」は「故郷」の講座に含まれ、1回だけとなりさみしい。「手紙の学校」も1回だけとなり、過去に謙信 KIDS を見せていただいたこともあるのでさみしい気がする。

池田委員：行事予定をみると市民芸能祭が入っていないが、課の仕事ではないのか。

事務局：ここに記載していないだけで、当課の業務としてこれからも担当させていただくが、実行委員会が自主的に動いている。

池田委員：事業としてやっておられるならもっと調整していただきたい。例えば古典芸能、新舞踊等でいろいろ不満があり、もっとリーダーシップを取っていただきたい。オブザーバーなのか、事業の主体としてやっているのか教えていただきたい。

事務局：あくまでオブザーバー的な立場にいると理解しているが、そのようなご要望があれば、会長をはじめ関係者と話をしていきたい。予算と時間に限りがある中、すべての方のご要望にはこたえられないが、つないで改善していきたいと思う。

横山委員：地域の人材育成ということで、講師の登録数やどれくらいの講師の方たちが公民館や地域の活動で動いているか把握しているのか。登録しているということなのでどのような活動に活用されているのか気になる。

事務局：登録していただいたものを広く公開しており、年に何回かは当課にも問い合わせをいただいているので市民の方の活動には役立っていると考えている。しかし、講師に直接連絡されている場合は全く把握できていない。

③ 市政モニターアンケートの結果について

— 資料No.3に基づき事務局説明、意見なし —

④ その他 (意見なし)

⑤ 閉 会

9 問合せ先

上越市教育委員会社会教育課

TEL : 025-545-9245 (内線 1230)

E-mail : shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。